専攻分野/コース （英文名）	緩和医療学 (Palliative Medicine)
研究指導教員	橋口　さおり
研究・教育の概略	近代医学は高度に発展し、専門性を高めていった一方で、患者をひとりの人間として捉える視点が軽視されてきた。このような延命至上主義への反省から、1900 年代以降に欧米でホスピス運動が起こり、さらに発展して全人的医療が重要視されるようになってきている。近年はさらに Patient centered care、つまり患者中心の医療へとダイナミックはパラダイムシフトが起こりつつある。患者中心の医療とは、単に医療者がチームとなって医療を提供するのではなく、患者自身の参画、つまり患者自身が意思表示を行い、積極的に自らの医療に関わることが重要となる。緩和医療学では患者を中心とした全人的医療に関連する、苦痛そのものの探求、様々な指標を用いた苦痛のアセスメント、終末期における医療倫理、死生学、哲学など苦悩に関連する人文科学的探究、身体的症状緩和（痛み、呼吸困難等）における基礎的内容も含めた研究、地域包括ケアを含めた緩和ケア提供体制の検討、緩和ケアの教育に関連する検討を行う。また、緩和ケアの実践者としての視点が重要であることから、緩和ケアチームや緩和ケア外来、緩和ケア病棟での実践を通し、臨床現場で役立つ技法について実習などを通しての習得を目指す。
研究項目	1. 患者の意思決定に及ぼす要因、特に宗教社会学的要因に関する検討 2. 鎮痛補助薬のがん性慢性痛に対する効果の検討 3. がん患者の排便困難の緩和に関する検討 4. 医学部卒前・卒後教育における効果的な教育方略に関する検討 5. 地域連携の強化に関わる因子についての検討 6. ACP 等の意思決定支援のための研修方略の検討
準備学習（予習・復習）	緩和医療が提供されるタイミングは、疾患の診断時から終末期までであり、現場は急性期医療から地域包括ケアに至るまでと幅広い。緩和医療はこの 20 年ほどで長足の進歩を遂げたが、そのエビデンスは不足している。臨床現場で感じる小さな疑問を丹念に検討することがやがて大きなフィールドで役立つ結果となる。日頃の疑問について、論文検索等で裏付けをとり、臨床疑問と現在のエビデンスを整理することが、最良の準備学習となる。

2026 年度講義シラバス（１）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和医療学概論			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1 後期1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	緩和医療学および緩和医療の概要を把握し、リサーチクエスチョンにつなげる				
講義計画	緩和医療の歴史的背景や、現在、様々な医療現場で行われている緩和医療について講義を通じて学習する				
達成目標	緩和医療の現状と課題について把握し、リサーチクエスチョンを発見する				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書を読む、疑問点を整理するなど 1 時間程度				
成績評価法	出席、聴講態度（講義内での討論）による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づいて研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期（回）	内 容 （出席㊞）	後期（回）	内 容 （出席㊞）
1	緩和医療の定義	1	身体症状・精神症状の評価
2	緩和医療の歴史 （欧米）	2	QOL 評価
3	緩和医療の歴史 （アジア・環太平洋）	3	予後予測
4	緩和医療の歴史 （日本）	4	身体症状概論
5	緩和ケアの提供体制	5	精神症状概論
6	全人的苦痛	6	心理的反応
7	チーム医療	7	社会的問題
8	生命倫理の基本理論	8	スピリチュアリティとスピリチュアルケア
9	緩和ケアにおける倫理的問題	9	意思決定支援
10	腫瘍学（がんに関する基礎知識）	10	臨死期のケア
11	基本的緩和ケアと専門的緩和ケア	11	苦痛緩和のための鎮静
12	緩和ケアにおける研究手法	12	特定集団への緩和ケア （小児）
13	緩和ケア教育における課題	13	特定集団への緩和ケア （非がん）
14	包括的アセスメントの概要	14	特定集団への緩和ケア （認知症）
15	全身状態・身体機能評価	15	家族ケア・遺族ケア

2026 年度講義シラバス（２）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	身体症状の病態生理・評価・治療			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1 後期1）	履修年次	1 年、2 年		
テーマと目的	身体症状の病態生理を学び、適切な治療を選択する				
講義計画	身体症状の病態を理解し、治療について講義を通して学ぶ				
達成目標	症状がおこる原因と治療の根拠について、科学的洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	痛みの定義と病態	1	嚥下困難・消化不良・吃逆
2	がん性疼痛の病態生理	2	悪心・嘔吐
3	慢性疾患における疼痛の病態	3	便秘・下痢
4	薬物療法概論	4	黄疸・腹水
5	オピオイド療法	5	悪液質
6	オピオイドクライシス	6	栄養
7	非オピオイド鎮痛薬	7	倦怠感
8	鎮痛補助薬	8	呼吸困難
9	インターベンショナル療法	9	咳嗽・その他の呼吸器症状
10	認知行動療法	10	皮膚症状
11	学際的いたみ治療の実際	11	創傷ケア・オストミーケア
12	骨転移痛のマネジメント	12	リンパ浮腫
13	神経障害性疼痛のマネジメント	13	口渇・口腔ケア
14	がん治療に伴う慢性痛のマネジメント	14	排尿障害・膀胱攣縮
15	小児がん疼痛	15	尿閉

2026 年度講義シラバス（３）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	精神症状の評価と治療			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2単位（前期1 後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	苦痛の病態生理を学び、適切な治療を選択する				
講義計画	精神症状の病態を理解し、適切な治療について講義を通して学ぶ				
達成目標	症状がおこる原因と治療の根拠について、科学的洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	緩和ケアにおける精神症状	1	がんの部位別精神的特徴(婦人科)
2	緩和ケアにおけるコーピングとレジリエンス	2	がんの部位別精神的特徴(頭頸部)
3	がん罹患リスクと精神的要因	3	がんの部位別精神的特徴(血液)
4	抑うつのスクリーニングとアセスメント	4	がんに関連する PTSD
5	治療 (抑うつ)	5	支持療法
6	不安のスクリーニングとアセスメント	6	認知行動療法
7	不安への対応	7	マインドフルネス
8	無力感と希死念慮	8	家族ケア・遺族ケア
9	適応障害のアセスメントと治療	9	がんサバイバーの精神的苦痛
10	せん妄 (病態)	10	がんサバイバーの精神的ケア
11	せん妄 (アセスメントと治療)	11	終末期ケアにおける精神的苦痛と対応
12	がんの部位別精神的特徴(肺がん)	12	特殊集団に対する精神的ケア(高齢者)
13	がんの部位別精神的特徴(乳がん)	13	特殊な集団に対する精神的ケア(小児)
14	がんの部位別精神的特徴(消化器がん)	14	がんの親をもつ子供の支援
15	がんの部位別精神的特徴(泌尿器)	15	医療スタッフのバーンアウト症候群

2026 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和医療に関わる医療倫理			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1 後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	緩和医療にかかわる倫理について学び、患者や医療従事者と協働することができる				
講義計画	緩和医療における倫理的問題について講義を通して学ぶ				
達成目標	緩和医療に関わる医療倫理について系統的に学び、洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 生命維持治療と終末期ケアに関する方針決定 金芳堂				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	臨床倫理 概論	1	特殊な治療に関する意思決定 概要
2	様々な生命維持治療	2	各論 人工呼吸器
3	終末期における倫理的目標	3	各論 透析
4	医療者の倫理的対応能力	4	各論 重篤な脳損傷
5	倫理的行為を支援する組織のあり方	5	各論 栄養・水分補給
6	社会・経済・法律の側面	6	各論 輸血
7	アドバンス・ケア・プランニング	7	各論 抗生剤
8	事前指示	8	各論 昇圧剤
9	意思決定プロセス	9	各論 化学療法
10	新生児・小児・青年に関する指針	10	各論 手術
11	ケアの引継ぎに関する指針	11	各論 放射線照射
12	死亡判定に関する指針	12	終末期鎮静
13	施設の倫理的基本方針について	13	DNAR
14	代理決定者・家族とのコミュニケーション	14	安楽死・尊厳死 歴史的背景と法律
15	意思決定の心理的側面	15	安楽死・尊厳死 現状と課題

2026 年度講義シラバス（５）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	がん医療の倫理的側面			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1　後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	がん診療にかかわる倫理的側面について学び、問題点について理解できる				
講義計画	がん医療における倫理的問題について講義を通して学ぶ				
達成目標	がん医療に関わる医療倫理について系統的に学び、洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 がん医療の臨床倫理　医学書院				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	がん医療における倫理の特徴	1	臨床試験における倫理的課題　総論
2	組織の倫理的ビジョンと実践	2	各論　アクセスと利用可能性
3	がん医療における患者中心のケア	3	各論　研究の意図と目的
4	生命倫理の原則と終末期ケア	4	各論　IRB と参加者としての患者の役割
5	終末期ケアにおける困難な状況	5	各論　インフォームド・コンセント
6	終末期ケアにおける課題の整理	6	各論　研究の種類とフェーズ
7	小児がん研究における倫理的課題	7	各論　遺伝子・ゲノム研究
8	小児がん終末期の倫理的問題	8	各論　研究における利益相反
9	がんサバイバーシップとは何か	9	がん患者教育における倫理
10	サバイバーショップケアにおける倫理	10	がん医療における商業主義
11	統合医療と倫理	11	治療費に関する倫理的考え方
12	統合医療を望む患者への対応	12	法令とコンプライアンス
13	がん医療に関わるコストと格差	13	遺伝情報に関する倫理
14	ビジネスとしてのがん医療	14	遺伝カウンセリング
15	終末期にかかるコスト	15	がん医療における意思決定

2026 年度講義シラバス（６）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和医療提供体制　現状と課題			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1　後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	緩和医療の提供体制ついて学び、問題点について考察できる				
講義計画	緩和医療の提供体制について講義を通して学ぶ				
達成目標	地域医療を含む緩和医療の提供体制について洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	緩和医療提供体制概論	1	ケアホスピス等　新興の施設
2	世界における緩和医療提供の現状	2	地域連携の現状と課題
3	Essential package of palliative care	3	日本各地の地域医療の特性
4	人権としての緩和医療	4	緩和ケア提供を担うリソース
5	緩和医療提供の障壁	5	がん対策基本法と基本計画の変遷
6	基本的緩和ケアと専門的緩和ケア	6	がん医療提供体制（がん拠点病院）
7	緩和ケア提供のモデル	7	緩和ケアに関連した医療制度（世界）
8	集中治療室における緩和ケア	8	緩和ケアに関連した医療制度（日本）
9	救急医療における緩和ケア	9	医療保険と介護保険
10	高齢者施設における緩和ケア	10	川崎市における地域連携
11	ホスピス・緩和ケア病棟	11	地域連携　事例検討　１（がん）
12	緩和ケアチームによる緩和ケア提供	12	地域連携　事例検討　２（心不全）
13	地域包括ケアのしくみ	13	地域連携　事例検討　３（呼吸不全）
14	在宅訪問診療と訪問看護	14	地域連携　事例検討　４（小児）
15	在宅ホスピス	15	総括

2026 年度講義シラバス（７）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和医療に関わる宗教・哲学・文化			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり		担当教員連絡先	PHS 81778	
単位数	2 単位（前期1　後期1）		履修年次	1年、2 年	
テーマと目的	緩和医療に係る人文科学的領域ついて学び、問題点について考察できる				
講義計画	緩和医療に関わる人文科学的領域について講義を通して学ぶ				
達成目標	緩和医療に関わる人文的領域について洞察力を身につける				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	メメント・モリ	1	スピリチュアリティ
2	死生学の展開	2	医療におけるスピリチュアリティ
3	死生観の歴史的考察	3	スピリチュアルニーズのアセスメント
4	古代ギリシャの死生観	4	スピリチュアルペイン
5	キリスト教の死生観	5	スピリチュアルペインのアセスメント
6	仏教の死生観	6	スピリチュアルケア
7	宗教社会学	7	Life review therapy
8	近代哲学における死生観	8	Meaning-centered psychotherapy
9	日本人の死生観	9	Dignity therapy
10	現代における死の意味	10	多職種チームによるスピリチュアルケア
11	日本人の宗教観 「無宗教」	11	医療者のトレーニング
12	緩和ケアにおける宗教の位置づけ	12	事例検討 （がん）
13	宗教家の緩和ケアへのかかわり	13	事例検討 （心不全）
14	学校教育における「死」の扱い	14	事例検討 （呼吸不全）
15	医学教育における「死」の扱い	15	事例検討 （AYA世代）

2026 年度講義シラバス（８）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和医療研究の手法			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1 後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	緩和医療に関連する研究手法ついて学び、研究計画をたてることができる				
講義計画	緩和医療に関連する研究手法ついて講義を通して学ぶ				
達成目標	緩和医療にかかわる研究計画をたてることができる				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	緩和医療における研究手法	1	演習1 質的研究 （問いを立てる）
2	研究デザイン	2	演習2 先行研究のレビュー
3	量的研究の種類	3	演習3 研究方法を決める
4	緩和ケア研究におけるアウトカム	4	演習4 データ分析
5	症例報告	5	演習5 結果の記述と考察
6	質的研究概要	6	演習6 量的研究 （問いを立てる）
7	質的研究の手法 （内容分析）	7	演習7 先行研究のレビュー
8	グラウンデッドセオリー	8	演習8 研究方法を決める
9	エスノグラフィ	9	演習9 必要症例数を決める
10	混合研究法	10	演習10 データ解析
11	知っておくべき研究倫理	11	演習11 結果の記述と考察
12	統計解析の基本	12	演習12 症例報告の書き方
13	臨床研究におけるバイアス	13	症例報告書の作成演習1
14	交絡とその制御	14	症例報告書の作成演習2
15	多施設研究	15	症例報告書の作成演習3

2026 年度講義シラバス（９）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	チーム医療と人材育成			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1　後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	緩和医療にかかわるチーム医療ついて学び、多職種について知る				
講義計画	チーム医療について講義を通して学ぶ				
達成目標	チーム医療について知り、多職種による視点をもって考察することができる				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	緩和医療における多職種チーム	1	医学部卒前教育・卒後教育
2	チームビルディング	2	専門医制度の現状と課題
3	コアチームと拡大チーム	3	病棟看護師への緩和ケア教育
4	バーンアウト症候群	4	専門看護師育成
5	コアチームにおける看護師の役割	5	リンクナース制度
6	専門薬剤師	6	専門薬剤師育成
7	緩和ケアにおけるソーシャルワーク	7	リンクファーマシスト
8	チャプレン・臨床宗教師の役割	8	基本教育としての緩和ケア研修会
9	管理栄養士の役割	9	地域における啓発活動
10	理学療法士・作業療法士	10	地域における職種間連携
11	言語療法士	11	多職種連携　事例1　（がん）
12	臨床心理士	12	多職種連携　事例1　（心不全）
13	音楽療法士	13	多職種連携　事例1　（呼吸不全）
14	ピアサポーター	14	多職種連携　事例1　（小児）
15	介護犬	15	総括

2026 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	コミュニケーション論			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	2 単位（前期1 後期1）	履修年次	1年、2 年		
テーマと目的	緩和医療にかかわるコミュニケーションついて学ぶ				
講義計画	緩和医療にかかわるコミュニケーションついて講義と演習を通じて学ぶ				
達成目標	患者の苦痛の把握、質的研究への寄与				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学 第 2 版 日本緩和医療学会編 Oxford textbook of Palliative Medicine 6th edition				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	出席、講義内での討論による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1	コミュニケーション総論	1	ACP のフロー
2	緩和ケアにおけるコミュニ―ケーション	2	ACP ロールプレイ 1
3	悪い知らせの伝え方	3	ACP ロールプレイ 2
4	SPIKES と SHARE	4	ACP の普及啓発
5	コミュニケーションの促進ツール	5	各論1 病名告知
6	対応が難しい場合のコミュニケーション	6	各論2 積極的治療の中止
7	怒りへの対応	7	各論3 終末期の療養場所の選択
8	悲嘆への対応	8	各論4 苦痛緩和のための鎮静の導入
9	否認への対応	9	各論5 DNAR
10	家族とのコミュニケーション	10	各論6 高齢患者とのコミュニケーション
11	医療従事者間のコミュニケーション	11	各論7 AYA 世代とのコミュニケーション
12	アドバンス・ケア・プランニング概論	12	各論8 小児とのコミュニケーション
13	疾患別 ACP の効果	13	各論9 担癌患者の親をもつ子供
14	ACP の障壁	14	各論10 小児患者の親との対応
15	ACP のコア・エレメンツ	15	総括

2026 年度講義シラバス（１１）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和ケアチーム実習			必修/選択	必修
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	1単位（前期・後期）	履修年次	1 年、2 年		
テーマと目的	緩和ケアチームにおける緩和ケアの実践を学ぶ				
講義計画	患者の苦痛の包括的評価と対応について実習を行う				
達成目標	緩和ケアチームにおける実臨床において適切な評価と治療が遂行できる				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 聖マリアンナ医科大学病院　緩和ケアマニュアル				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	実習中の総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	問診	1	希死念慮
2	身体診察	2	口腔内のアセスメント
3	痛みのアセスメント	3	腹部膨満のアセスメント
4	呼吸困難のアセスメント	4	予後予測
5	排便困難のアセスメント	5	意思決定支援
6	胸水のアセスメント	6	悲嘆への対応
7	腹水のアセスメント	7	家族への対応
8	倦怠感のアセスメント	8	排便困難の治療
9	食思不振のアセスメント	9	呼吸困難の治療
10	筋力のアセスメント	10	地域連携の実際
11	可動域のアセスメント	11	口腔ケア
12	高齢者機能評価	12	死前喘鳴の対応
13	せん妄のスクリーニング	13	終末期鎮静
14	意識障害のアセスメント	14	家族の悲嘆への対応
15	不眠のアセスメント	15	総括

2026 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	臨床腫瘍学総論			必修/選択	選択
担当教員	砂川　優	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	2 単位（前期･後期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	がん薬物療法専門医に必要な臓器横断的な知識の習得				
講義計画	日本臨床腫瘍学会の教育カリキュラムに沿った講義				
達成目標	がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の基礎知識の習得				
教科書･参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習･復習･時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案･計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	Molecular Biology	16	殺細胞性抗がん薬
2	Molecular Methods	17	分子標的治療薬
3	がんの病因、疫学と予防	18	免疫療法
4	臨床試験	19	プレシジョン･メディシン
5	がん検診･がん研究の社会的側面	20	HIV 関連悪性腫瘍
6	画像診断	21	腫瘍随伴症候群
7	内視鏡診断	22	転移がんの治療
8	病理診断･TNM 分類	23	オンコロジー･エマージェンシー
9	腫瘍マーカー	24	副作用対策と支持療法
10	腫瘍外科学総論	25	がん患者のリハビリテーション
11	放射線腫瘍学	26	緩和療法
12	Inteventional Radiology	27	がんの社会心理学的側面
13	薬物療法総論	28	チーム医療
14	抗がん薬の薬理学	29	遺伝相談
15	抗がん薬の投与方法	30	がんゲノム医療

2026 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	放射線治療学			必修/選択	選択
担当教員	中村 直樹	担当教員連絡先	内線 3480		
単位数	2単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	放射線治療の原理と適応疾患に対する最適な治療計画の理解				
講義計画	実際の症例を用い治療計画の実際を経験する。				
達成目標	1 放射線治療の原理と適応疾患に対する最適対処法を理解する。 2 将来、臨床の場で放射線治療適応疾患を見逃さずに治療施設へ紹介できる。				
教科書・参考書	放射線治療グリーンマニュアル 金原出版 放射線治療計画ガイドライン 2012				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる　１時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	放射線腫瘍学 総論 物理 1	1	症例を用いた治療計画実習
2	放射線腫瘍学 総論 物理 2	2	症例を用いた治療計画実習
3	放射線腫瘍学 総論 物理 3	3	症例を用いた治療計画実習
4	放射線腫瘍学 総論 生物 1	4	症例を用いた治療計画実習
5	放射線腫瘍学 総論 生物 2	5	症例を用いた治療計画実習
6	放射線腫瘍学 総論 生物 3	6	症例を用いた治療計画実習
7	放射線腫瘍学 総論 治療計画機器	7	症例を用いた治療計画実習
8	放射線腫瘍学 総論 治療機器	8	症例を用いた治療計画実習
9	放射線腫瘍学 総論 適応と選択	9	症例を用いた治療計画実習
10	放射線腫瘍学 総論 適応と選択	10	症例を用いた治療計画実習
11	放射線腫瘍学 各論 頭頸部	11	症例を用いた治療計画実習
12	放射線腫瘍学 各論 肺	12	症例を用いた治療計画実習
13	放射線腫瘍学 各論 婦人科疾患	13	症例を用いた治療計画実習
14	放射線腫瘍学 各論 泌尿器科疾患	14	症例を用いた治療計画実習
15	放射線腫瘍学 各論 消化器疾患	15	総合討論

2026 年度講義シラバス（１４）

講義コード	※	専攻分野	緩和医療学		
講義題目	緩和ケア病棟実習			必修/選択	選択
担当教員	橋口 さおり	担当教員連絡先	PHS 81778		
単位数	1単位（前期・後期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	緩和ケア病棟における患者の苦痛の評価と治療について学ぶ				
講義計画	緩和ケア病棟において終末期患者の緩和ケア実習を行う				
達成目標	看取りの患者に適切な症状緩和ができる				
教科書・参考書	専門家をめざす人のための緩和医療学　第 2 版　日本緩和医療学会編 聖マリアンナ医科大学病院緩和ケアマニュアル				
準備学習(予習・復習・時間)	参考図書などを利用し、疑問点を整理する。1 時間程度。				
成績評価法	実習中の総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	緩和医療学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を執筆する能力				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	問診	1	口腔内のアセスメント
2	身体診察	2	腹部膨満のアセスメント
3	痛みのアセスメント	3	予後予測
4	呼吸困難のアセスメント	4	意思決定支援
5	排便困難のアセスメント	5	悲嘆への対応
6	胸水のアセスメント	6	家族への対応
7	腹水のアセスメント	7	排便困難の治療
8	倦怠感のアセスメント	8	呼吸困難の治療
9	食思不振のアセスメント	9	地域連携の実際
10	筋力のアセスメント	10	口腔ケア
11	可動域のアセスメント	11	死前喘鳴の対応
12	高齢者機能評価	12	終末期鎮静
13	せん妄のスクリーニング	13	家族の悲嘆への対応
14	意識障害のアセスメント	14	グリーフケア
15	不眠のアセスメント	15	総括